

横浜植物会ホームページ <http://yoko-syoku.sakura.ne.jp/> (変更しました) 上記QRコードで閲覧可

ミヤマトキシウ

会長 勝山輝男

ミヤマトキシウ *Pogonia subalpina* はトキシウ *P. japonica* とヤマトキシウ *P. minor* のちょうど中間的な雰囲気のラン科植物で、本州中部以北の日本海側の亜高山帯の湿地や湿草原に生える。Yukawa and Yamashita (2017) により新種記載されたが、改訂新版日本の野生植物などの主だった出版物ではまだ紹介されていない。きれいな花が咲くラン科植物なので、新種記載される前から、ラン科植物に詳しい人達の間では知られていたようだ。すでにネットでは各地で撮影された写真が紹介されており、ウィキペディア日本語版でも取り上げられている。原記載論文はネットで無料ダウンロードできるが、英文なので、英文が苦手な方は前述したウィキペディア日本語版で概要を知ることができる。

2023 年に白馬・五竜高山植物園で日本スゲの会の全国大会が行われた。そのときのエクスカッションで歩いた地蔵の頭 (標高 1673 m) 付近で淡紅色の花を咲かせているトキシウを見かけた。仙石原で見ていたトキシウに比べて、花の色が薄く、唇弁が小さく感じた。そのときにスゲの会の参加者からミヤマトキシウではないかと教えてもらった。これがミヤマトキシウとの最初の出会いであった。帰った後に Yukawa and Yamashita (2017) を見たところ、白馬村五竜の標高 1600 m 付近が基準標本の産地となっていた。

ミヤマトキシウは花が横向きに咲き、萼片が平開するので、花が上を向いて大きく開かないヤマトキシウよりもトキシウと誤認されていたことが多い。ミヤマトキシウはトキシウと比べて唇弁の幅が狭く、中裂片の上側に生える毛状突起がきわめて短い (1 mm 以下) ことで区別できる (図参照)。花色の濃淡や側花弁中脈の筋はかなり変化があるようだ。

今年 (2025 年) の夏は 7 月下旬に生命の星・地球博物館友の会の植物グループの勉強会で岩手県の八幡平に行った。その際に黒谷地湿原の一角でミヤマトキシウに出会った。図のミヤマトキシウの花は、そのときに撮影した写真をもとに描いたものである。8 月上旬には横浜植物会の運営委員研修で梅池に行った。携行した梅池自然園のポケット

図鑑 (石原, 1994) にはトキシウの名前でミヤマトキシウの写真が掲載されていたので、梅池湿原でも見られるのではないかと期待していたが、残念ながら梅池では発見することができなかった。

Yukawa and Yamashita (2017) の原記載に引用されているミヤマトキシウの最北の産地は秋田県仙北市田沢湖町で、おそらく秋田駒ヶ岳や乳頭山周辺であろう。岩手県の八幡平はこれよりも北方の産地となる。八甲田山周辺にも生育適地は多いと思うので、青森県にも分布している可能性が高い。

今年の野外での花のシーズンはすでに終わりだが、日本海側の高山や亜高山で撮影されたトキシウの写真を持っていたら、ミヤマトキシウかもしれない。この機会に再確認してはどうか。

文 献

石原敏行, 1994. 梅池自然園花の旅. 211pp. ネイチャーガイド 104, 白馬村.

ウィキペディア日本語版, ミヤマトキシウ. <https://ja.wikipedia.org/wiki/ミヤマトキシウ> (accessed on 2025.9.5).

Yukawa, T. and Y. Yamashita, 2017. *Pogonia subalpina* (Orchidaceae): a new species from Japan. Bull. Natl. Mus. Sci., Ser. B, 43(3):79-86.

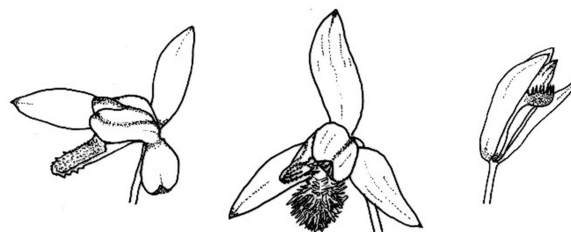


図 左:ミヤマトキシウ (八幡平 2025 年 7 月 29 日撮影の写真より作成) 中:トキシウ (箱根仙石原 2020 年 6 月 4 日撮影の写真より作成) 右:ヤマトキシウ (箱根仙石原 2023 年 6 月 10 日撮影の写真より作成)